

目 次

はしがき	1
目次	5

第1部：日本語学班の活動の概要¹

コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発(田野村忠温)* ...	11
---	----

第2部：研究会等の発表資料²

コーパスからのコロケーション情報の抽出・続 ——辞書記述への応用の可能性を前提とした考察——(田野村忠温)	23
「〇〇性」の研究——国会会議録の調査から——(服部匡)	35
大きさを表す形容詞類の選択傾向とその推移 ——「〇〇性が～」などの場合——(服部匡)	39
大きさを表わす形容詞類の選択傾向 ——「～量/～率/～感/～力」などの場合——(服部匡)	61
複合格助詞の連用形式について ——「に対して」と「に対し」を中心に——(杉本武)	63
「かもしれない」と「可能性がある」——テキストの主観性——(杉本武)	68
複合(格)助詞の記述をめぐって(杉本武)	74
単語の社会的コノテーションとコーパス ——「現代人」を例に——(石井正彦・姜晃完)	83

通時コーパスを用いた言語変化の多元的分析 ——外来語出現率の二元分析を例に——（石井正彦・金愛蘭）	93
日本語コーパス言語学の新展開（石井正彦）	99
中学校歴史教科書の“パラレルコーパス”（石井正彦）	111

第3部：論文¹

サ変動詞の活用のゆれについて・続 ——大規模な電子資料の利用による分析の精密化——（田野村忠温）*	121
非標準的な形の出現傾向と話者の意識について ——「めったにしか(～ない)」「ろくにしか(～ない)」という言い方——（服部匡）* …	134
「～シテイル」と「～シテオル」： 戦後の国会会議録における使用傾向調査（服部匡）*	139
「とともに」と「と一緒に」（杉本武）	156
借用の「位相」 ——JST・科学技術文献情報の「ユビキタス」を例に——（石井正彦）*	166

- 1) 第1部および第3部には、今年度中に公刊された論文の一部（またはその原稿）と未発表の論文とを収める。前者（* 印を付したもの）については書誌情報を「研究発表（1）公刊論文」（2頁）に記載している。
- 2) 第2部には、日本語学班研究会を含む研究会・学会などで班員が行った口頭発表・講演の一部について、その配布資料ないしそれに修正を施したものを収める。